

令和4年度 第1回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和4年6月29日（水）午後1時30分から午後2時45分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 17名

碧南市社会福祉協議会 杉浦 浩二（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 三田 恒夫

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 長坂 雅也

愛知県刈谷児童相談センター 瀬戸 奈都生

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩史

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 加藤 正昭

ふれあい工房アルゴ及びWHJ相談支援センターメビア 雲出 佑

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

ふれあい支援センター 竹内 涼

りはくる 小幡 一美

(2) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主事 榊原 陵子

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 川合 修

福祉課社会福祉係主事 齊木 鉄馬

福祉課社会福祉係主事 亀島 瑞生

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課長	村松 幸雄
地域福祉課地域福祉係主査	古川 裕隆
地域福祉課地域福祉係主査	小島 誠司
地域福祉課地域福祉係主事	坪井 優佳
地域福祉課地域福祉係主事	長谷川 祥子
地域福祉課地域福祉係主事	天野 好美
地域福祉課地域福祉係主事	久村 明弘

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 障害福祉サービス等の提供実績について
- (2) 基幹相談支援センターの実績について
- (3) 碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について
- (4) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（杉浦会長）

(2) 議題

ア 障害福祉サービス等の提供実績について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：就労継続支援（B型）の実績が見込み以上に多かったことについて、事業所としても、ここ数年で利用者数が増えたと感じている。若い人に限らず、高齢の方も増えてきている。また、事業所への継続的な通所が行えるようになり定着者が増えているのが理由かと思われる。

B委員：世の中の流れとして、就労継続支援（A、B型）の制度が確立され、精神障害（発達障害を含む）者からの需要が増えてきている。事業所もここ10年間で増えてきており、コンプライアンス違反などで廃業になった株式会社系のA型事業所から、流れてきている利用者もいる。B型事業所の意味合いとして、就労移行支援などを利用したが、一般就労に結びつかなかった人のさらなる準備期間であり。今後も、精神障害（発達障害を含む）者からの需要が高まる傾向であると考えられる。

C委員：就労移行支援事業所について、他市でも株式会社系列の事業所が増えてきている。併せて就労定着支援の体制が整ってきている。また、ハローワーク主催の当事者と就労移行事業所が直接話すことができる機会などを設けて、これから一般企業への就職に対しても力が入っていくのではないかと考えられる。

D委員：就労継続支援（B型）を利用したいが、身体に障害等があり、毎日通所することが困難な利用者について、他市では生活介護と併用し、身体のケアを行う日と働く日を作っているが、碧南市では併給が可能なか。

事務局：就労継続支援（B型）と生活介護の併用については、利用者の個別の状況から判断を行い、支給決定を行っていくこととなる。

D委員：以前、他の利用者から併用ができないと言われたと聞いたのだが。

事務局：その対象の利用者の詳細が分からないので、その利用者の件について、説明ができないが、個別に状況を踏まえた上での判断を行っている。

E委員：就労継続支援（A、B型）からの就職者数について、碧南市は数値を算出しているのか。

事務局：市で関わっている方の個別の情報はあるが、それ以外は把握できていない。

事務局：基幹相談支援センターでも、明確な数値は算出していないが、個人的な感覚で約6名の方が一般就労に繋がった。

イ 基幹相談支援センターの実績について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

F委員：基幹相談支援センターについては、複数の障害や、虐待、高齢、貧困など対応が難しいケースについて、相談に乗ってもらうことや対応してもらうことで非常に助かっている。

ウ 碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

G委員：にしお特別支援学校が今年度より開設されたとのことから、現状や今年度卒業される学生の進路希望など、わかる範囲で教えていただきたい。

H委員：今年度、小学1年生から高校3年生まで揃って開校し碧南市からも多くの通学者がいる。予想以上の入学者がおり、現在は251名が在籍している。また、今後についても増えてくるのではないかと予想している。

障害の特性や施設の特徴を活かしながら学習を行っている。進路希望については6月に体験実習という形で、就労継続支援（A、B型）事業所の利用を行った。

I 委員：こども部会のサポートシートの普及活動について、4月時点で担任の先生等に対し周知しているとのことであるが、保護者等に対しては、どのように周知しているのか。

事務局：保護者に対しては、次年度、就学する方で障害福祉サービスを利用している方については、担当の相談支援専門員から周知を行っている。障害福祉サービスを利用していない方については、先生等より依頼があった際に周知を行っている。

I 委員：小、中学校の特別支援クラスの保護者等に対して、周知やチラシ等の配布は行わないのか。

事務局：先生に対しては、周知やチラシ等の配布を行っているが、保護者等については、個別で行っている。

(3) その他

事務局が会議資料に基づき、今回の会議予定等を説明した。

7 まとめ

(1) 学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）

貴重な報告や、意見交換ご苦労様でしたとの言葉があり、下記のとおり4点話があった。

1点目は、冒頭に就労継続支援B型事業所のことが出ていたが、B型事業所は、居場所機能と職業訓練機能に大きく分けられ、それぞれの事業所がどのような固有性を持っているかを、この自立支援協議会を通し、知っておくことが必要である。また、1つの事業所がすべての役割を網羅することは困難であるため、事業所もそこを意識化することが大切となってくる。一方で、現実的なところに目を向ける必要もあり、一般企業に、どれほど移行ができていくか厚生労働省も数字をあまり明確に出していないが、約3年前に出されたもので、就労移行支援から約25%くらいであった。また、工賃で言うとB型が1万6千円くらい、A型が7万5千円くらい、特例子会社はその2倍の15万円くらいである。利用者や家族にとっては、そのような経済的なところも重要視される問題であることを理解する必要がある。

2点目に、このような場での、「語り、聞き、共感」することが非常に重要である。私達はそれぞれの事業所を運営する立場や、利用する家族など様々な立場であるが、話をして受け止めることにより、知恵が沸き発想が広がると、1人で抱えこまなくて

済む。そのようなことが非常に大切になってくるのではないかと思われる。この自立支援協議会の良さは、公的機関や、教育関係が参加しているため、時間が限られているものの、繋がりができることが良い。

3点目に、社会資源の活用と創出について、質問にもあったサポートシートの件など、良いものがあるが、どのように活用していくのが大切になる。就労でいうと短時間労働トライアル雇用など、一般的には20時間の壁があり、20時間を超えないと労働保険の対象にならないが、トライアル雇用なら、それより短時間で利用ができ、企業にも補助が出るため対象者も使いやすい。私たちも、どのように使いやすいか、実際使っている人はどのようなメリットを感じているかを共有できると良いと思われる。

最後は、「知ることは生きること」ということである。私たちは、医療的ケア児への関わり方や防災のことなど、障害がある方を中心に置き知っていくことが大切。地域包括ケアシステムで国は、自助、互助、共助、公助と言っている、そのため、皆で知恵を出し対象者にあった対応を検討していくが必要になる。

以上